

平成27年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月7日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東  
 コード番号 3697 URL http://www.shiftinc.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)丹下 大  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役CFO (氏名)福元 啓介 (TEL)03(6809)1165  
 四半期報告書提出予定日 平成27年7月8日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

1. 平成27年8月期第3四半期の連結業績(平成26年9月1日~平成27年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第3四半期	2,268	51.9	218	244.2	215	228.8	139	509.6
26年8月期第3四半期	1,493	—	63	—	65	—	22	—

(注) 包括利益 27年8月期第3四半期 139百万円(478.0%) 26年8月期第3四半期 24百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第3四半期	10.10	9.10
26年8月期第3四半期	1.82	—

- (注) 1. 平成25年8月期第3四半期においては、四半期連結財務諸表を作成していないため、平成26年8月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
 2. 当社株式は、平成26年11月13日に東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。平成27年8月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の計算においては、新規上場日から平成27年8月期第3四半期連結累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。  
 3. 当社は、平成26年7月8日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また平成27年2月1日付で普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第3四半期	2,024	1,458	70.9
26年8月期	1,530	1,056	69.0

(参考) 自己資本 27年8月期第3四半期 1,434百万円 26年8月期 1,056百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年8月期	—	0.00	—	—	—
27年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想(平成26年9月1日~平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,043	41.5	293	136.2	285	129.6	190	27.3	13.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成27年2月1日付で、普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 ー 社、除外 ー 社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

27年8月期3Q	14,410,500株	26年8月期	12,568,000株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

27年8月期3Q	一株	26年8月期	一株
----------	----	--------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

27年8月期3Q	13,814,987株	26年8月期3Q	12,568,000株
----------	-------------	----------	-------------

当社は、平成26年7月8日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また平成27年2月1日付で普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策により市場が円安・株高基調が継続し、雇用情勢や個人消費や輸出が持ち直すなど、回復傾向が継続したものの、円安による物価の上昇や、消費税増税後の個人消費が弱含みに推移し、実態経済の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

当社グループの関連するソフトウェア市場では、ソフトウェア開発会社がより品質の高いソフトウェアをより効率的に開発することを求められようになっております。また、一方で優秀な開発エンジニアの採用が難しくなっており、開発会社は自社のエンジニアを開発に専念させ、検証業務をアウトソースする傾向にあり、この傾向は引き続き拡大していくものと見込んでおります。

こうした経営環境の下、当社グループでは独自の метод論に基づく高品質なソフトウェアテストサービスを展開し、着実に顧客基盤を拡大してまいりました。当社グループの主たる対面市場であるエンタープライズ向けソフトウェアテストサービスの領域におきましては、旺盛なシステム投資に対応する形で幅広い領域でのソフトウェアテストニーズが喚起され、大幅な増収となりました。また前期より注力しているゲームを中心としたエンターテインメント向けソフトウェアテストサービスの領域におきましても、ソーシャルゲームプロバイダーを中心に新規顧客の獲得を続けております。

以上のような取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,268,693千円(前年同期比51.9%増)となりました。また、前期に採用した人材の育成や事業の収益責任をより明確にする組織体制の整備を進めた結果、案件単位での収益率が向上いたしました。更なる成長に向けて人材採用、教育への投資を積極的に進めたことで販売費及び一般管理費は増加いたしました。営業利益は218,601千円(前年同期比244.2%増)と過去最高益となりました。株式上場に関連した費用が発生したことにより経常利益は215,423千円(前年同期比228.8%増)、四半期純利益は139,489千円(前年同期比509.6%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①ソフトウェアテスト事業

当社グループでは、ソフトウェアテスト事業を営んでおり、ソフトウェア開発の各工程において顧客企業のソフトウェア品質の向上に資するソリューションを提供しております。

サービス別の業績は、次のとおりであります。

##### (i) コンサルティングサービス

主としてソフトウェア開発の上流工程において、ソフトウェアテスト体制導入支援、テスト戦略・計画立案支援、テスト推進支援、テスト設計支援などのコンサルティングサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、前連結会計年度において採用した人材の成長、活躍などが寄与し、受託ソフトウェア開発企業、金融機関に対するサービスが順調に拡大いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のコンサルティングサービスの売上高は683,843千円(前年同期比19.5%増)となりました。

##### (ii) ソリューションサービス

ソフトウェアテストでは、テスト計画やテスト設計を通じて膨大なテストケースが作成され、これを実行するデバッグ工程に移行しますが、当社グループではこれをソリューションサービスとして受託して提供しております。当社グループでは独自に開発したCATシステムにより生産性を追求したソリューションサービスを提供しており、低価格高品質を実現しております。

当第3四半期連結累計期間においては、ソーシャルゲーム向けサービス、スマートフォンアプリ、ウェブサイトを対象としたテストサービスが順調に拡大したほか、前連結会計年度より注力してきたテスト自動化スクリプト作成などのサービスが拡大いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のソリューションサービスの売上高は1,512,227千円(前年同期比85.9%増)となりました。

(iii) ヒンシツプラットフォームサービス

当社グループではコンサルティングサービスやソリューションサービスを通じ、幅広い業種業態におけるソフトウェアやその品質に関するナレッジが蓄積いたします。当社グループはそうした蓄積されたナレッジやデータを分析し顧客に有用な情報として提供したり、不具合の発生を予見したり、ソフトウェアテストに関するノウハウを教育サービスとして提供したりしております。

当第3四半期連結累計期間においては、ソフトウェアの仕様書を調査し不具合の発生を予見する仕様書インスペクションサービスや、プロジェクトにおける不具合発生実績や開発状況を元に、システムに偏在する不具合のばらつきを予想し、効果的なテスト手法等を提案する品質分析サービスが順調に拡大いたしました。また、ヒンシツ大学などの教育関連サービスも堅調に推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のヒンシツプラットフォームサービスの売上高は72,622千円(前年同期比34.9%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ493,699千円増加し、2,024,384千円となりました。これは主に、現金及び預金が387,642千円、売掛金が40,981千円、無形固定資産が24,203千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ91,163千円増加し、565,818千円となりました。これは主に、買掛金が57,948千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ402,536千円増加し、1,458,565千円となりました。これは主に、新規上場による公募増資や第三者増資を実施したこと等により資本金の増加が117,894千円、資本剰余金の増加が117,894千円あったこと、また四半期純利益139,489千円の計上があったことによります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年8月期の業績予想の前提条件は以下のとおりです。

売上高については、継続的な取引先と新規顧客に分けて予想しております。ソフトウェアテストサービスはソフトウェアを開発する事業者に対して継続して提供することが多く、安定した取引関係を維持拡大していくこととなります。そうした継続的な取引先については当社の売上高の約8～9割を占めておりますが、過去の取引実績や営業状況を踏まえつつ、顧客単位で通期の取引予想額を算出しております。一方、新規顧客については問い合わせ数、訪問数、営業担当者数などの過去の実績を参考として通期で獲得が見込まれる金額を算出しております。当期は対前年比41.5%増収の3,043百万円の売上高を見込んでおります。

営業利益については、売上予想値を前提として策定される売上原価計画、販売費及び一般管理費計画を踏まえて算出した金額を予想値としております。当社の売上原価の大部分は労務費及び外注費で構成されますが、売上拡大に伴う人員増加を想定し、売上原価は対前年比で37%程度の増加を見込んでおります。また、来期以降に向けた人材採用や教育に投資することを計画しており、採用費を中心として販売費及び一般管理費は前年比30%程度の増加を見込んでおります。当期営業利益は対前年比136.2%増益の293百万円を見込んでおります。

経常利益については、営業利益に当期に発生が見込まれる営業外収益、営業外費用を考慮して算出した金額を予想値としております。当期は上場関連費用の発生を織り込み、前年比129.6%増の285百万円を見込んでおります。

当期純利益については、当期に発生が見込まれる特別利益、特別損失、税金費用を考慮して算出した金額を予想値としており、当期は対前年比27.3%増の190百万円を見込んでおります。なお、前期は子会社の売却に伴う特別利益が多額に発生しております。

当第3四半期連結累計期間においては、エンタープライズ向けソフトウェアテストサービスを中心として全体的に好調な受注環境で推移するなか、来期以降の成長に向けた人材の採用や教育、事業提携等による事業開発投資を積極的に実施してまいりました。そのため売上原価率の上昇や採用、教育活動による販売費及び一般管理費の増加がありましたが、当初の想定のとおり着地いたしました。

平成27年8月期の通期業績予想につきましては、現時点では平成27年1月9日に公表した予想から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実行税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	903,130	1,290,772
売掛金	262,348	303,329
たな卸資産	3,338	14,141
その他	65,250	65,046
貸倒引当金	△1,611	△1,820
流動資産合計	1,232,455	1,671,469
固定資産		
有形固定資産	133,012	149,724
無形固定資産	59,827	84,030
投資その他の資産	105,389	119,160
固定資産合計	298,230	352,914
資産合計	1,530,685	2,024,384
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	53,549	111,497
1年内返済予定の長期借入金	10,920	10,920
未払費用	145,020	195,348
未払法人税等	104,883	42,646
賞与引当金	42,386	44,317
その他	104,565	147,286
流動負債合計	461,325	552,017
固定負債		
長期借入金	13,040	5,480
その他	290	8,321
固定負債合計	13,330	13,801
負債合計	474,655	565,818
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	452,950	570,844
資本剰余金	437,950	555,844
利益剰余金	163,875	303,365
株主資本合計	1,054,775	1,430,053
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,254	4,826
その他の包括利益累計額合計	1,254	4,826
少数株主持分	—	23,685
純資産合計	1,056,029	1,458,565
負債純資産合計	1,530,685	2,024,384

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
売上高	1,493,509	2,268,693
売上原価	1,021,007	1,510,107
売上総利益	472,501	758,586
販売費及び一般管理費	408,997	539,984
営業利益	63,503	218,601
営業外収益		
受取利息	108	80
為替差益	—	3,837
補助金収入	1,800	—
還付加算金	414	—
消費税等差額	570	—
その他	357	807
営業外収益合計	3,251	4,725
営業外費用		
支払利息	788	131
為替差損	443	—
株式交付費	—	5,532
上場関連費用	—	2,239
営業外費用合計	1,232	7,903
経常利益	65,522	215,423
特別利益		
子会社株式売却益	—	318
特別利益合計	—	318
特別損失		
固定資産除却損	2,263	—
特別損失合計	2,263	—
税金等調整前四半期純利益	63,258	215,741
法人税等	40,377	80,066
少数株主損益調整前四半期純利益	22,880	135,675
少数株主損失(△)	—	△3,814
四半期純利益	22,880	139,489

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	22,880	135,675
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,254	3,572
その他の包括利益合計	1,254	3,572
四半期包括利益	24,135	139,248
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	24,135	143,062
少数株主に係る四半期包括利益	—	△3,814

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年5月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)

当社は平成26年10月8日及び平成26年10月23日開催の取締役会決議に基づき、有償一般募集による新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ59,800千円増加しております。また、平成26年12月12日付でオーバーアロットメントによる売出しに関連して、野村証券株式会社から第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ46,644千円増加しております。さらに、新株予約権の行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ11,450千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ117,894千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が570,844千円、資本剰余金が555,844千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年9月1日至平成26年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	ソフトウェア テスト	その他事業			
		アドバゲーム	SCENTEE		
売上高					
外部顧客への売上高	1,439,465	20,517	33,525	—	1,493,509
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,439,465	20,517	33,525	—	1,493,509
セグメント利益又は損失(△)	383,921	8,335	△46,269	△282,483	63,503

(注) 1. セグメント利益の調整額△282,483千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年9月1日至平成27年5月31日)

前連結会計年度におけるSCENTEE事業の譲渡、及び第1四半期連結会計期間における株式会社アドバゲーミングの全株式譲渡に伴い、当社グループはソフトウェアテスト事業のみの単一セグメントとなりました。これによりセグメント情報の記載を省略しております。